



ServerView Suite ServerView Virtual-I/O Manager 補足情報

■ はじめに

本書は、ServerView Virtual-IO Manager V3.0に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みに
なる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Virtual-IO Manager V3.0 取扱説明書 (sv-viom-jp.pdf)
- ServerView Virtual-IO Manager CLI V3.0 – Command Line Interface (sv-viomcli-jp.pdf)

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Virtual-IO Manager(以下 VIOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V3.0

■ 補足情報

(1) ライセンスおよび製品サポート

Virtual-IO Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のサーバ数のライセンスを用意してください。

- ライセンスは有償です。1 ターゲットサーバブレード毎に 1 ライセンスが必要です。
- Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。
- 従来のライセンス製品 (PG-SVVM01) を VIOM V2.4 以降で 사용할 ことができます。1 ライセンス当たり、18 サーバライセンスとして計上されます。

(2) システム要件

- Virtual-IO Manager V3.0 以降では Red Hat Enterprise Linux 5.6 / 5.7 / 6 / 6.1 / 6.2 をサポートします。Red Hat Enterprise Linux 5.5 はサポートしていません。
- 64 ビット Java は未サポートです。Virtual-IO Manager は 64 ビット Java では動作しません。32 ビット Java をインストールの上、32 ビット Internet Explorer を使用してください。
- Java7 は未サポートです。

(3) ServerView Virtual-IO Manager V3.0 のサポート状況およびサポート前提要件

Virtual-IO Manager V3.0 のサポート状況およびサポート前提要件について記載します。なお、未サポートのハードウェアにつきましては、新バージョンの VIOM でサポートしている可能性がありますので、弊社のインターネット情報ページにて新バージョンのリリース状況も合わせてご確認ください。

- ・ ラックマウントサーバは Virtual-IO Manager V3.0.08 以降でサポートします。
- ・ 各ハードウェアの PXE ブート、iSCSI SAN ブート、FC SAN ブートの対応状況につきましては、各ハードウェアのドキュメントにてご確認ください。オンボードコントローラの場合は PRIMERGY 本体のドキュメントになります。

■ブレードサーバ

ハードウェア	サポート可否	BIOS / ファームウェア	管理番号※1
BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデル	× ※2	-----	-----
BX900 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 4.71 以降※3	PGY0448
BX900 S2 シャーシ	○	全バージョン	-----
BX400 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 6.13 以降※3	PGY0399
BX920 S1	○	BIOS 3B39 / iRMC Firmware 4.84G 以降	PGY0383
BX920 S2	○	全バージョン	-----
BX920 S3	○	全バージョン※4	PGY0436
BX922 S2	○	全バージョン	-----
BX924 S2	○	全バージョン	-----
BX924 S3	○	全バージョン※4	PGY0437
BX960 S1	○	BIOS 1.16 / iRMC Firmware 5.20G 以降	PGY0382
スイッチブレード (1Gbps 36/12)	○	2.14、または 3.10 以降	PGY0387
スイッチブレード (1Gbps 36/8+2)	○	2.18、または 4.14 以降	PGY0387
スイッチブレード (1Gbps 18/6)	○	全バージョン	-----
スイッチブレード (10Gbps 18/8)	○	V02.00 NY0040 以降※5	PGY0386
LAN バススルーブレード (10Gbps 18/18)	○	全バージョン	-----
ファイバーチャネルスイッチブレード (8Gbps 18/8)	○	全バージョン	-----
ファイバーチャネルバススルーブレード (8Gbps 18/18)	○	全バージョン	-----
LAN 拡張ボード (1Gbps)	○	全バージョン	-----
LAN 拡張ボード (10Gbps)	○	全バージョン※6	-----
ファイバーチャネル拡張ボード (8Gbps)	○	ファームウェア 1.11A5 / BIOS 3.11A5 以降	PGY0330
コンパージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボード (PG-CND201, MC-CNA102E)	×	-----	-----
コンパージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボード (PY-CND02, MC-CNA112E)	○	全バージョン※4	-----

※1) 管理番号は下記 BIOS / ファームウェア一覧ページの管理番号になります。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

※2) BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデルのサポート予定はありません。

※3) 搭載ハードウェアによっては、より新しい MMB Firmware が必要になる場合があります。搭載ハードウェアの要件を必ず

ご確認ください。

※4) 不具合修正のため、最新の BIOS / ファームウェアの適用を推奨します。

※5) BX924 S3 を接続する場合はファームウェアをアップグレードする必要があります。ダウンロード検索からサポートバージョンを入手してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

※6) LAN 拡張ボード (10Gbps) を搭載した BX920 S1、BX922 S2、BX920 S2 は BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。BX920 S1 に搭載する場合、BIOS 3B52 / iRMC Firmware 4.98G 以降 (管理番号: PGY0383) を適用する必要があります。BX922 S2 に搭載する場合、BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降 (管理番号: PGY0397) を適用する必要があります。BX920 S2 に搭載する場合、BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降 (管理番号: PGY0396) を適用する必要があります。

■ラックマウントサーバ

ハードウェア	サポート可否	BIOS / ファームウェア	管理番号※1
RX100 S7	×	-----	-----
RX200 S7	○※2	BIOS 1.6.0 / iRMC Firmware 6.50A 以降	PGY0471
RX300 S7	○※2	BIOS 1.7.0 / iRMC Firmware 6.50A 以降	PGY0462
RX350 S7 / TX300 S7	○※2	BIOS 1.7.0 / iRMC Firmware 6.50A 以降	PGY0463
RX500 S7	×	-----	-----
RX600 S6	×	-----	-----
CX400 S1	×	-----	-----
ファイバーチャネルカード (8Gbps) (PY-FC201/L)	○	BootBIOS 6.30a1 / Firmware 2.00a4 以降 (ファームウェア/BootBIOS アップデートツール V3.0 以降)	ダウンロード検索
Dual port ファイバーチャネルカード (8Gbps) (PY-FC202/L)	○	BootBIOS 6.30a1 / Firmware 2.00a4 以降 (ファームウェア/BootBIOS アップデートツール V3.0 以降)	ダウンロード検索
ファイバーチャネルカード (8Gbps) (PY-FC211/L)	×	-----	-----
Dual port ファイバーチャネルカード (8Gbps) (PY-FC212/L)	×	-----	-----
コンバージド・ネットワーク・アダプタ (PY-CN202/L, OCE10102-F)	○※3	V4.0.487.19 以降	ダウンロード検索
Dual port LAN カード(1000BASE-T) (PY-LA222)	○※2	全バージョン	-----
Quad port LAN カード(1000BASE-T) (PY-LA234)	○※2	全バージョン	-----
Dual port LAN カード(10GBASE) (PY-LA242)	○※2	全バージョン	-----
LAN カード(1000BASE-T)	×	-----	-----
LAN カード(1000BASE-SX)	×	-----	-----

※1) 管理番号は下記 BIOS / ファームウェア一覧ページの管理番号になります。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

ダウンロード検索と記載されているものにつきましては、下記ダウンロード検索ページから最新版を入手してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

※2) IO 仮想化対象のサーバで WindowsOS を使用する場合、最新の LAN ドライバ (Onboard/PG-28xx/LND20x/PY-LAxxx LAN Driver & Intel (R) PROSet v16.8 以降) を適用してください。

IO 仮想化対象のサーバで LinuxOS を使用する場合、最新のドライバキット (2.6.18-274.el5 以降、2.6.32-131.0.15.el6 版以降) を適用してください。また、RX200 S7 は BIOS 1.8.0 / iRMC Firmware 6.51A 以降 (管理番号: PGY0471) を適用する必要があります。RX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降 (管理番号: PGY0462) を適用する必要があります。

RX350 S7 / TX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降 (管理番号: PGY0463) を適用する必要があります。

※3) コンバージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボードを搭載している場合は BIOS / ファームウェアのアップグレードが必要です。RX200 S7 は BIOS 1.8.0 / iRMC Firmware 6.51A 以降 (管理番号: PGY0471) を適用する必要があります。RX300 S7 は BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降 (管理番号: PGY0462) を適用する必要があります。RX350 S7 / TX300 S7 は

BIOS 1.11.0 / iRMC Firmware 6.53A 以降(管理番号: PGY0463)を適用する必要があります。

(4) マニュアル、リリースノート

- ・ インストーラが格納されているフォルダに日本語版のリリースノート(ReadMe_ja.htm)が格納されています。
- ・ リリースノートの「1.2 納品」に記載されている ServerView Software CD および Virtual-IO Manager のライセンスの注文番号は海外における注文番号です。日本国内での注文番号につきましては、システム構成図にてご確認ください。

(5) インストール時に入力した指定 MAC アドレスおよび WWN アドレスの妥当性チェックは行いません

インストール時に入力した指定 MAC アドレスおよび WWN アドレスにつきまして、妥当性のチェックは行いません。正しいアドレスを入力したことをよく確認した上で、次の画面に進んでください。

(6) インストール後に Java キャッシュデータを消去してください

Virtual-IO Manager をインストールした後、Virtual-IO Manager の画面を起動する前に、必ず Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施できます。

(7) Server View Virtual-IO Manager のアップデート手順

ServerView Virtual-IO Manager V2.1 および V2.2 からアップデートを行う場合、以下の手順で実施してください。

- 1) Virtual-IO Manager V2.1 を使用している場合は Virtual-IO Manager V2.2 にアップデートします。
- 2) Operations Manager を V5 以降にアップデートします。
- 3) Virtual-IO Manager を V2.6 にアップデートします。
- 4) Virtual-IO Manager を V3.0 にアップデートします。

※ServerView Operations Manager を V5 以降にアップデートする途中で以下の警告メッセージが表示されますが、問題ありませんので、[OK]をクリックして先に進めてください。

「There are other ServerView Suite products installed. These products will not work after this upgrade until they are upgraded to the appropriate JBoss versions too.」

Virtual-IO Manager V2.3 からアップデートを行う場合、以下の手順で実施してください。

- 1) Virtual-IO Manager V2.6 にアップデートします。
- 2) Virtual-IO Manager V3.0 にアップデートします。

(8) ヘルプメニュー

- ・ ヘルプボタンをクリックしたとき、ヘルプウィンドウは Virtual-IO Manager ウィンドウの後ろに表示されます。タスクバーでヘルプウィンドウをクリックして参照してください。
- ・ 下記の半角記号は特殊文字としての扱いになりますので、検索対象に指定できません。

! " & | () + * . ^ ¥ ?

- ・ 検索対象にアルファベットを一文字だけ入力して検索したとき、検索結果が正しく表示されない場合があります。

(9) サーバブレードの BIOS、ファームウェアや拡張カードの BIOM、ファームウェアをアップデートした後、インベントリブートを実施してください。

Virtual-IO Manager で管理しているサーバブレードの BIOS、ファームウェアや拡張カードの BIOM、ファームウェアをアップデートした後は、インベントリブートを実施してください。インベントリブートは 2 通りの方法があります。

- ・ 方法 1 (Virtual -IO Manager V2.6 以降にて可)
VIOM のマネージャ画面からインベントリブートを実行します。「サーバブレード構成」タブを開き、対象のサーバブレードを選択して、インベントリブートボタンをクリックしてください。
- ・ 方法 2
サーバブレードの抜き差しにより実施します。なお、抜き差しの際はサーバブレードを抜いた後 30 秒程度おいてから挿してください。サーバブレードを挿した後、自動で電源が入り、ハードウェアの情報を収集します(インベントリブート)。情報収集後、自動で電源をダウンします。Virtual-IO Manager でプロファイルを割り当てている場合は設定によってはそのまま継続稼働します。

(10) サーバブレード BX960 S1 を使用する場合

- ・ BIOS を更新した後、USB メモリは取り外してください。
- ・ iSCSI ブートを設定する場合は、iSCSI ブートチャネルを 2 つ設定してください。また、下のスロット側のオンボードポートに iSCSI ブートのブートチャネルを設定してください。

(11) 一旦既存の Server View Operations Manager を削除するときには ServerView Virtual-IO Manager も削除する必要があります。

Operations Manager の再インストール等の際し、一旦既存の Operations Manager をアンインストールするときには、下記の手順で Virtual-IO Manager をアンインストールしてください。

- 1) Virtual-IO Manager の構成のバックアップを行います。
- 2) Virtual-IO Manager と Operations Manager をアンインストールします。
- 3) Operations Manager を再インストールします。
- 4) Virtual-IO Manager を再インストールします。
- 5) Virtual-IO Manager の構成のリストアを行います。

(12) Linux コマンドラインを使用したライセンスの登録手順

グラフィカルではない環境でライセンスを登録、削除する場合は以下のコマンドラインを実行します。

- ・ 新規にライセンスを登録する

```
cd /opt/fujitsu/ServerViewSuite/plugins/viom/Manager
sh ./license.sh --no-gui
```

実行例)

```
# sh ./license.sh --no-gui
Running VIOM LICENSE MANAGER ...
=====
VIOM_LICENSE_MANAGER
=====
Enter license key or 'exit' to exit LICENSE_MANAGER:
XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
added XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX (v2),¥u5168¥u3066,¥u6c38¥u4e45,18
```

- ・ 登録済みライセンスを削除する

```
cd /opt/fujitsu/ServerViewSuite/plugins/viom/Manager
java -jar ./VIOM-LICENSE-MANAGER.jar -remove XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
```

(13) Server View Operations Manager の変更インストール/アップグレード後、ServerView Virtual-IO Manager 関連のサービスを起動する必要があります。

Operations Manager の変更インストール/アップグレードにより、下記のサービスが停止します。変更インストール/アップグレード後に起動する必要があります。

- ・ ServerView Virtual IO DB Backup Service (通常は停止状態です。起動していた場合のみ起動します)
- ・ ServerView Virtual IO Manager Service

(14) プロファイルを適応したサーバブレードに新規の IO オプションを搭載するときは、一旦プロファイルを解除する必要があります。

プロファイルを適応したサーバブレードに新規の IO オプション (LAN 拡張カード、FC 拡張カード) を搭載する前に、まず適用しているプロファイルを解除してください。その後、IO オプションを搭載してから、新しく作成したプロファイルを適用してください。

(15) iRMC のネットワーク設定を shared LAN (共有 LAN) に設定している場合、iRMC の通信に時間がかかる場合があります。

Virtual-IO Manager の画面操作時にタイムアウトが発生してエラーになることがあります。ネットワークの通信負荷がないことを確認してから、再度操作してください。繰り返しエラーになる場合は、iRMC のネットワーク設定を Management LAN (専用 LAN) にすることを推奨します。

(16) コネクションブレードのブート後、セットアップタブの画面において、コネクションブレードの表示が「非冗長 (Degraded)」と表示される場合があります。

コネクションブレードのブートに 5 分程度かかりますので、5 分～10 分程度待ってから、右上の更新ボタンをクリックして表示を更新してください。

(17) IO 仮想化対象のラックマウントサーバから NIC や FC 等の IO 仮想化した機器を取り外して、別のサーバに載せ替える場合、取り外す前にプロファイルを解除してください。

(18) IO 仮想化のアドレス範囲は ServerView Virtual-IO Manager のインストール時にしか選択できません。インストール時に選択した IO 仮想化のアドレス範囲を別の範囲に変更する場合は、Virtual-IO Manager をアンインストールして、再度インストールを行う必要があります。

(19) Red Hat Enterprise Linux 6 上のブラウザで Virtual-IO Manager の画面を日本語表示する場合は、ブラウザを使用する環境に JRE Version 6 Update 30 以降がインストールされている必要があります。

以上